

研究調査報告 1

香港の脆弱街区再生事例に関する調査報告

山家 京子

2014年2月、春節が明けた香港に、共同研究メンバー6名で調査に出向いた。共同研究のテーマは「東アジア4国際都市の脆弱地区の調査、ならびに環境社会再生への方法の探求」、アジア的再生計画論の構築を目的としている。4つの都市は、水原（韓国）、台北（台湾）、ハルビン（中国）、横浜。それらの都市間比較にパースペクティブを与えるために、香港を調査対象地とした。

今回対象とした香港の脆弱街区再生事例は、大きく3つのパートに分けられる。

まず、歴史的建造物の再生として、主に湾仔のショッピングハウスの再生事例を視察調査した。動漫基地（Comix Home Base）は1910年代のショッピングハウスを改修し、アート・センターにコンバージョンした事例である（写真1）。現行法規に合わせるために、スチールパイプを挿入した屋根の垂木、鉄板を仕込んだ階段、保存ファサードを支えるブリッジなど様々な工夫がなされた美しい建築である。写真2は湾仔市場（Wan Chai Market）を道沿いの低層部分のみ残し、高層集合住宅として再開発した事例である。市場を生活の記憶と結びついた大切なものと捉え、住民から残してほしいとの声が上がったそうだ。



写真1. 動漫基地（Comix Home Base）

次に、団地の再生では、九龍の石硤尾邨（Shek Kip Mei Estate）を対象とした。石硤尾邨はH型につながった6層の集合住宅26棟からなり、通常マークIと呼ばれる香港最古の公営団地である。1973年から建替えが始まり、その一部が保存されユースホステルに転用されている。また、隣接するJockey Club Creative Arts Centreは、元工場アパートをアート・センターにコンバージョンしたもので、香港建築学会からMedal of the Year of Hong Kongが授与された質の高い改修デザインである。

最後に、文化的観光地として再生した漁業水上集落・大澳（Tai O）である（写真3）。大澳の棚屋住居は水上



写真2. 湾仔市場（Wan Chai Market）

に杭を打ち、その上にボードで道をつくり、道に接して高床の家を造っている。数年前に「文化保全地区」として指定され、政府の支援事業でアルミ材を貼るなど改修事業が実施されている。生業であった漁業の衰退から、生活景としての漁業を保全する形で住民自ら観光地化する道を選んだ。

環境社会再生への道筋を考えると、建築物・街区の再生による持続可能性の確保は重要な課題である。日本では耐震を理由に（実際は経済的事情により）、良質で質の高い建築が解体されることが多く、そのたびに文化的後進性を痛感させられる。香港は建築物や街区の再生事例が豊富であるばかりでなく、「保存」が「住民」発意であることが何より素晴らしく、印象的であった。

（所員 工学部教授）



写真3. 大澳（Tai O）